



日産化学株式会社

2025 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

説明者

取締役 専務執行役員 CFO 大門秀樹

2024 年 11 月 11 日

大門：日産化学の大門でございます。それでは、ご説明を始めさせていただきます。

2024年度上期決算サマリー



上期

前年同期比

- 売上高は、125億円増収(+12%)
- 営業利益は、42億円増益(+18%)
- 純利益は、10億円増益(+5%)

上期

業績予想比

(2024年5月発表予想との比較)

- 売上高は、86億円上ぶれ
- 営業利益は、43億円上ぶれ
- 純利益は、24億円上ぶれ

株主還元の状況

- 中間配当 70円(前年比:同額)
- 自己株式取得 上期50億円完了(1,061千株)

業績予想の修正

- 2024年5月発表の通期業績予想を上方修正(p9参照)

| 4

決算説明会資料の4ページになります。

上期決算サマリーの記載がございますが、前年同期比では、売上高で125億円の増収、プラス12%、営業利益は42億円の増益、プラス18%、純利益は10億円の増益、プラス5%となりました。

また、5月に発表いたしました業績予想比については、売上高で86億円の上ぶれ、営業利益は43億円の上ぶれ、純利益は24億円の上ぶれでございました。

次に、株主還元の状況でございますが、中間配当といたしましては前年と同額の70円を予定いたします。また、自己株の取得につきましては、上期中に50億円、100万株強、取得を完了しております。

業績予想の修正ということで、年間数値につきましては後ほどご説明しますが、上方修正を予定しております。

2024年度上期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	549	508	1,057	587	595	1,182	+38	+87	+125 (+12%)
営業利益	150	91	241	144	139	283	-6	+48	+42 (+18%)
営業外損益	20	1	21	16	-20	-4	-4	-21	-25
為替差損益	15	4	19	13	-21	-8	-2	-25	-27
経常利益	170	92	262	160	119	279	-10	+27	+17 (+7%)
特別損益	0	6	6	0	8	8	0	+2	+2
純利益※1	122	73	195	116	89	205	-6	+16	+10 (+5%)
EBITDA※2	178	122	300	180	165	345	+2	+43	+45
EPS(円/株)	87.40	52.15	139.55	83.78	65.00	148.78	-3.62	+12.85	+9.23
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	98	-	-	96	-	-	-2
売上高営業利益率	27.3%	17.9%	22.8%	24.6%	23.4%	24.0%	-2.7pt	+5.5pt	+1.2pt
為替レート(円/ドル)	137	145	141	156	150	153	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	83	83	83	88	86	87	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

5

具体的な数字は5ページにございます。

まずここは前年同期比ということで、上期、1Q、2Qという内訳も含めまして記載をしております。上期を見ていただきますと、売上高では1,182億円、営業利益は283億円、営業外損益ではマイナス4億円ということで、経常利益としては279億円、特別損益はプラス8億円ということで、純利益が205億円となっております。

為替レートにつきましては、2Qがドル円150円でしたので、上期6カ月平均では153円でございます。

ただし、24年9月末につきましては、皆さんご存知の通り大きく円高にふれました。約143円弱でしたので、9月末と6月末を比較いたしますと、約20円弱円高にふれまして、上期の為替差損益はマイナス27億になっておる次第でございます。

2024年度上期決算サマリー 業績予想比



(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 実績			業績予想比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	562	534	1,096	587	595	1,182	+25	+61	+86 (+8%)
営業利益	119	121	240	144	139	283	+25	+18	+43 (+18%)
営業外損益	3	-10	-7	16	-20	-4	+13	-10	+3
為替差損益	0	0	0	13	-21	-8	+13	-21	-8
経常利益	122	111	233	160	119	279	+38	+8	+46 (+20%)
特別損益	0	7	7	0	8	8	0	+1	+1
純利益 ^{※1}	93	88	181	116	89	205	+23	+1	+24 (+13%)
EBITDA ^{※2}	-	-	313	180	165	345	-	-	+32
EPS(円/株) ^{※3}	-	-	131.23	83.78	65.00	148.78	-	-	+17.55
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	97	-	-	96	-	-	-1
売上高営業利益率	21.2%	22.7%	21.9%	24.6%	23.4%	24.0%	+3.4pt	+0.7pt	+2.1pt
為替レート(円/ドル)	145	145	145	156	150	153	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※4}	82	82	82	88	86	87	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
 ※3 EPSは自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映 ※4 実績は財務省貿易統計ベース

6

6 ページは 5 月に発表いたしました業績予想との比較でございます。

同じくドル円の為替レートにつきましては、年初は 145 円を想定しておりましたので、そこから比べますと 8 円ほどドル高、円安ということで終わったということになります。

営業利益の増減分析

		2024年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	業績予想(2024年6月発表)	業績予想比
		283 億円	241 億円	+42 億円(+18%)	240 億円	+43 億円
上期	化学品	前年同期比 -3億円	売上高は前年並みも、固定費等※1の増加により減益			
		業績予想比 2億円下ぶれ	硝酸製品や尿素・アドブルー®等下ぶれにより利益下ぶれ			
	機能性材料	前年同期比 +33億円	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益			
		業績予想比 21億円上ぶれ	半導体・無機上ぶれにより利益上ぶれ			
	農業化学品	前年同期比 +26億円	フルララネル・グレーシア・ライメイ等増収により増益			
		業績予想比 18億円上ぶれ	フルララネル・グレーシア・ライメイ等上ぶれにより利益上ぶれ			
	ヘルスケア	前年同期比 -5億円	リパロ減収、固定費等増加により減益			
		業績予想比 4億円上ぶれ	ファインテック上ぶれにより利益上ぶれ			

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

続きまして、セグメント別、上期の営業利益の増減分析を7ページにお示しをしております。

前年同期比で42億円、業績予想比でも43億円の増益上ぶれとなりました。化学品では、前年同期比では営業利益でマイナス3億円、また業績予想比でも2億円下ぶれとなりました。前年同期比で言えば、売上高は前年並みも、固定費等、こちらは下の※1にございますけれども、在庫変動の影響を含みまして、この増加により減益。また、業績予想比では硝酸製品や尿素・アドブルー等下ぶれにより、利益下ぶれということでした。

一方、機能性材料でございますが、前年同期比でプラス33億円、業績予想比で21億円の上ぶれということで、前年同期比においてはディスプレイ・半導体・無機のすべてにおいて増収増益となりました。また、業績予想比では半導体・無機では売上高上ぶれ、ディスプレイは予想通りでございましたが、事業部全体の営業利益としましては上ぶれでございました。

続きまして、農業化学品でございますが、前年同期比では26億円の増益、また業績予想比では18億円の上ぶれということでした。個別の製品については、動物薬フルララネルあるいはグレーシア、ライメイが増収、または上ぶれによりまして、収益を牽引しました。こちらに加えまし

て、固定費で一過性の増益要因として約 11 億円がございました。後ほどご説明いたしますが、こちらの数字も含まれているということでございます。

最後に、ヘルスケアですが、前年同期比ではマイナス 5 億円、ここはリバロの減収と、また固定費等の増加によって 5 億円の減益となりました。一方、業績予想比では上期は 4 億円の上ぶれということでございます。

以上が上期のサマリーでございます。

2024年度通期 業績予想サマリー



2024年度業績予想

営業利益は、5月発表予想の500億円に対し、530億円に上方修正

通期	前年同期比	■ 売上高は183億円増収(+8%) ■ 営業利益は48億円増益(+10%)、純利益は14億円増益(+4%) ■ ROE予想は17.1%
通期	前回業績予想比 (2024年5月発表予想との比較)	■ 売上高は109億円上ぶれ ■ 営業利益は30億円上ぶれ、純利益は10億円上ぶれ
下期	前年同期比	■ 売上高は58億円増収(+5%) ■ 営業利益は6億円増益(+2%)、純利益は4億円増益(+2%)
下期	前回業績予想比 (2024年5月発表予想との比較)	■ 売上高は23億円上ぶれ ■ 営業利益は13億円下ぶれ、純利益は14億円下ぶれ

株主還元予想

- 年間配当は164円(2024年5月発表から変更なし)
- 自己株式取得は合計100億円を予定(期間:2024年5月~2025年3月)

配当	通期164円 中間70円、期末94円、配当性向57.4% 【前年比】同額 【2024年5月発表予想比】変更なし
自己株式取得	100億円、(取得期間:2024年5~2025年3月)(2023年度実績 100億円、1.7百万株)
自己株式消却	1百万株消却済(2024年9月)
総還元性向予想	82.4%
中期経営計画目標	総還元性向75%、配当性向55%

続きまして通期の業績予想、9 ページをご覧ください。

まず、年間の 24 年度業績予想としては、営業利益は冒頭に記載の通り、5 月発表予想の 500 億円に対しまして、530 億円に上方修正をさせていただいております。

この数字としましては、まず通期の前年同期比では、営業利益はプラス 10%、48 億円の増益になります。また純利益ではプラス 4%、14 億円の増益、ROE 予想は 17.1%でございます。

また、年間の業績予想比で言えば、営業利益は 30 億円の上ぶれになります。また、先ほど上期は申し上げましたので、今度は下期を捉えて申し上げますと、前年同期比では、営業利益は 6 億円の増益、また業績予想比では営業利益は 13 億円の下ぶれという想定を置いております。

株主還元の予想でございますが、年間配当は 164 円、これは 5 月の発表から変更しておりません。下の表に書いてございますけども、中間 70 円、期末 94 円ということで、配当性向は今回の当期純利益をベースに計算いたしますと 57.4%ということになります。

また、自己株の取得につきましては、合計 100 億円を予定ということで、すでに 50 億円の取得は完了済みということでございますが、来年の 3 月までに、この残り 50 億円の取得予定ということでございます。

表の 3 行目にございますように、すでに 9 月までに 1 百万株の自己株取得済みの部分については消却を終えておるということでございまして、この数値は総還元性向で言えば 82.4%になります。

なお、中計目標としては、配当性向で 55%、総還元性向で 75%というのがめど値になっております。

続きまして、具体的な数字でございます。

2024年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績					2024年度 予想 (2024年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	522	746	1,268	2,450	+125 (+12%)	+26	+32	+58 (+5%)	+183 (+8%)
営業利益	241	93	148	241	482	283	94	153	247	530	+42 (+18%)	+1	+5	+6 (+2%)	+48 (+10%)
営業外損益	21	-5	18	13	34	-4	3	3	6	2	-25	+8	-15	-7	-32
為替差損益	19	-8	11	3	22	-8	0	0	0	-8	-27	+8	-11	-3	-30
経常利益	262	88	166	254	516	279	97	156	253	532	+17 (+7%)	+9	-10	-1 (-1%)	+16 (+3%)
特別損益	6	0	-4	-4	2	8	0	6	6	14	+2	0	+10	+10	+12
純利益 ^{※1}	195	65	120	185	380	205	72	117	189	394	+10 (+5%)	+7	-3	+4 (+2%)	+14 (+4%)
EBITDA ^{※2}	300	129	191	320	620	345	-	-	329	674	+45	-	-	+9	+54
EPS(円/株)	139.55	46.47	86.80	133.27	272.82	148.78	-	-	137.16	285.94	+9.23	-	-	+3.89	+13.12
配当(円/株)	70	-	-	94	164	70	-	-	94	164	0	-	-	0	0
配当性向(%)	-	-	-	-	60.1%	-	-	-	-	57.4%	-	-	-	-	-2.7pt
配当総額	98	-	-	130	228	96	-	-	129	225	-2	-	-	-1	-3
売上高営業利益率	22.8%	18.8%	20.7%	19.9%	21.3%	24.0%	18.0%	20.4%	19.4%	21.6%	+1.2pt	-0.8pt	-0.3pt	-0.5pt	+0.3t
ROE	-	-	-	-	17.1%	-	-	-	-	17.1%	-	-	-	-	0.0pt
為替レート(円/¥ _米)	141	148	149	148	145	153	145	145	145	149	-	-	-	-	-
原油(JCC) (¥ _米 /bbl) ^{※3}	83	91	84	88	86	87	87	87	87	87	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 10

10 ページは前年同期比ということで、3Q、4Q、下期分も合わせまして記載をしております。まず年間を見ていただきますと、売上高で 2,450 億円、営業利益で 530 億円、経常利益で 532 億円、当期純利益で 394 億円という数字でございます。

ROE は、先ほど申し上げました 17.1%でございます。また、下期の想定為替レートはドル円で 145 円という置き方をしております。

2024年度業績予想サマリー 前回業績予想比



(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	1,096	1,245	2,341	1,182	1,268	2,450	+86 (+8%)	+23 (+2%)	+109 (+5%)
営業利益	240	260	500	283	247	530	+43 (+18%)	-13 (-5%)	+30 (+6%)
営業外損益	-7	12	5	-4	6	2	+3	-6	-3
為替差損益	0	0	0	-8	0	-8	-8	0	-8
経常利益	233	272	505	279	253	532	+46 (+20%)	-19 (-7%)	+27 (+5%)
特別損益	7	7	14	8	6	14	+1	-1	0
純利益 ^{※1}	181	203	384	205	189	394	+24 (+13%)	-14 (-7%)	+10 (+3%)
EBITDA ^{※2}	313	343	656	345	329	674	+32	-14	+18
EPS(円/株) ^{※3}	131.23	147.85	279.08	148.78	137.16	285.94	+17.55	-10.69	+6.86
配当(円/株)	70	94	164	70	94	164	0	0	0
配当性向(%) ^{※3}	-	-	58.8%	-	-	57.4%	-	-	-1.4pt
配当総額	97	130	227	96	129	225	-1	-1	-2
売上高営業利益率	21.9%	20.9%	21.4%	24.0%	19.4%	21.6%	+2.1pt	-1.5pt	+0.2pt
ROE ^{※3}	-	-	16.7%	-	-	17.1%	-	-	+0.4pt
為替レート(円/%)	145	140	143	153	145	149	-	-	-
原油(JCC)(%) ^{※4}	82	82	82	87	87	87	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 EPS、配当性向、ROEは自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映
 ※4 実績は財務省貿易統計ベース

11

続きまして、11 ページ。これは、5 月の当初の業績予想との比較でございますので、後ほどご覧ください。

営業利益の増減分析

下期

2024年度 予想
(2024年11月発表)

247億円

2023年度 実績

241億円

前年同期比

+6億円(+2%)

化学品

前年同期比 +4億円

環境化学品や尿素・アドブルー[®]、高純度硫酸等の増収により増益

機能性材料

前年同期比 +25億円

ディスプレイ・半導体増収により増益

農業化学品

前年同期比 -3億円

グレーシアやパーミット等で増収も、固定費等^{※1}16億円増加により減益

ヘルスケア

前年同期比 横ばい

通期

2024年度 予想
(2024年11月発表)

530億円

2023年度 実績

482億円

前年同期比

+48億円(+10%)

前回予想(2024年5月発表)

500億円

前回業績予想比

+30億円

化学品

前年同期比 +1億円

固定費等13億円増加も、環境化学品や高純度硫酸等が増収により増益

業績予想比 5億円下ぶれ

ファインケミカル売上高上ぶれも、電力・運送費等のコスト増、固定費等上ぶれ(減益要因)により利益下ぶれ

機能性材料

前年同期比 +58億円

ディスプレイ・半導体・無機増収により増益

業績予想比 39億円上ぶれ

半導体・無機上ぶれにより利益上ぶれ

農業化学品

前年同期比 +23億円

グレーシア・フルララネル等の増収により増益

業績予想比 16億円上ぶれ

フルララネル・グレーシア等上ぶれに加え、固定費等12億円の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ

ヘルスケア

前年同期比 -5億円

リパロ減収により減益

業績予想比 予想通り

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

12

各セグメント別の営業利益の増減分析、12 ページにまいります。

こちらには下期の前年同期比に絞って記載をしております。全体としては6億円の増益ですが、内訳を見ますと、化学品でプラス4億円、また機能性材料ではプラス25億円ということで、ディスプレイ・半導体の増収が牽引するという想定になります。

農業化学品はマイナス3億円でございますが、グレーシア、パーミット等で増収も、固定費等、これは例によって在庫変動影響も含みますけども、これらを合わせた16億円の減益要因が入っているということになります。ヘルスケアは、前年同期比では横ばいでございます。

また、通期の前年同期比と業績予想比に関しましては、化学品では、前年同期比でプラス1億円、ここは固定費等13億円増加がございましたが、環境化学品や高純度硫酸等が増収により増益でございます。

一方、業績予想比では5億円の下ぶれということで、ファインの売上高の上ぶれありますが、一方で、基礎を中心に電力料金や運送費等のコスト増、また固定費等の上ぶれ、これは減益要因ですけども、こういったものも重なりまして、利益としては下ぶれになります。

続きまして機能性材料ですが、前年同期比でプラス 58 億円の大幅増益。ここは上期にもご説明したのと同様、ディスプレイ・半導体・無機での増収による増益となります。また、業績予想比でも 39 億円の上ぶれということで、同様の要因になります。

それから、農業化学品でございますが、前年同期比では 23 億円の増益、また業績予想比でも 16 億円の上ぶれでございます。業績予想比では、固定費等の一過性を含んだ 12 億円の下ぶれもございます。

ヘルスケアは前年同期比ではマイナス 5 億円、一方、業績予想比ではほぼ予想通りを想定しております。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	4.4	12.8	17.2	5.9	11.1	17.0	+1.5	-1.7	-0.2
持分法投資損益	4.0	1.4	5.4	1.4	8.4	9.8	-2.6	+7.0	+4.4
為替差損益※1	18.8	3.3	22.1	-8.3	0.0	-8.3	-27.1	-3.3	-30.4
支払利息	-2.6	-2.7	-5.3	-3.5	-4.6	-8.1	-0.9	-1.9	-2.8
固定資産処分損他	-3.6	-1.5	-5.1	0.5	-9.4	-8.9	+4.1	-7.9	-3.8
営業外損益	21.0	13.3	34.3	-4.0	5.5	1.5	-25.0	-7.8	-32.8
特別利益	6.0	7.3	13.3	8.2	6.0	14.2	+2.2	-1.3	+0.9
特別損失	0.0	-11.8	-11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	+11.8	+11.8
特別損益	6.0	-4.5	1.5	8.2	6.0	14.2	+2.2	+10.5	+12.7

※1 為替レート(円/ドル): 23/3末 133.54、23/9末 149.58、24/3末 151.40、24/6末 161.14、24/9末 142.82

続きまして 13 ページ、営業外損益と特別損益の前年同期比を表しております。

年間の営業外損益、上の表の最下段ですけども、マイナス 32.8 億円という大きな数字になっております。この要因は先ほど申し上げましたが、下の※1 にございますように、特にこの 24 年 9 月末の急激な円高に向かった為替レートが大きく影響したということになります。

また、特別損益では前年同期比でプラス 12.7 億円ということですが、年間を通して見ますと、当初予定していた 14 億円の特別利益を想定しております。

営業外損益・特別損益の内訳 前回業績予想比



(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	4.1	13.0	17.1	5.9	11.1	17.0	+1.8	-1.9	-0.1
持分法投資損益	1.9	6.8	8.7	1.4	8.4	9.8	-0.5	+1.6	+1.1
為替差損益※1	0.0	0.0	0.0	-8.3	0.0	-8.3	-8.3	0.0	-8.3
支払利息	-4.0	-3.9	-7.9	-3.5	-4.6	-8.1	+0.5	-0.7	-0.2
固定資産処分損他	-8.2	-5.1	-13.3	0.5	-9.4	-8.9	+8.7	-4.3	+4.4
営業外損益	-6.2	10.8	4.6	-4.0	5.5	1.5	+2.2	-5.3	-3.1
特別利益	7.0	7.0	14.0	8.2	6.0	14.2	+1.2	-1.0	+0.2
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	7.0	7.0	14.0	8.2	6.0	14.2	+1.2	-1.0	+0.2

※1 為替レート(円/ドル): 23/3末 133.54、23/9末 149.58、24/3末 151.40、24/6末 161.14、24/9末 142.82

続きまして、14 ページは前回の業績予想比でございますので、後ほどご覧ください。

キャッシュ・フロー

2024年度年間予想のフリー・キャッシュ・フローは345億円、前年同期195億円の増加

(億円)

	2023年度 実績		2024年度 予想 (2024年11月発表)		前年同期比	2024年度 年間予想 (2024年5月発表)
	上期	年間	上期実績	年間	年間	
営業活動によるキャッシュ・フロー	360	337	462	535	+198	495
税金等調整前純利益	268	518	288	546	+28	519
特別損益(マイナスは益)	-6	-2	-8	-14	-12	-14
減価償却費※1	59	138	62	144	+6	161
法人税等の支払	-86	-159	-58	-120	+39	-124
運転資金増減他	125	-158	178	-21	+137	-47
投資活動によるキャッシュ・フロー	-85	-187	-71	-190	-3	-203
設備投資※2	-110	-202	-95	-191	+11	-221
投資有価証券購入・売却	7	16	-1	10	-6	19
その他	18	-1	25	-9	-8	-1
フリー・キャッシュ・フロー	275	150	391	345	+195	292
財務活動によるキャッシュ・フロー	-362	-221	-311	-327	-106	-245
株主還元(配当)	-132	-230	-130	-227	+3	-292
株主還元(自己株式取得)	-50	-100	-50	-100	0	
有利子負債増減	-180	109	-130	0	-109	47
その他	0	0	0	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2	-3	0	-2	0
現金及び現金同等物の増減額	-84	-69	78	18	+87	47
現金及び現金同等物の残高	212	227	305	245	+18	274

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

| 15

次に 15 ページ、キャッシュ・フローになります。

11 月発表値を見ていただきますと、営業キャッシュ・フローは 535 億円。投資活動によるキャッシュ・フローは 190 億円のキャッシュアウトということで、トータルしたフリー・キャッシュ・フローとしましては、345 億円のプラスを見込みます。これは前年同期比では 195 億円の増加となります。

現預金の水準につきましても、年間では 245 億円という想定でございまして、例年並みの極めて健全な預金残を確保できるということでございます。

貸借対照表

(億円)

	2023年9月末	2024年3月末	2024年9月末	前期末比		2023年9月末	2024年3月末	2024年9月末	前期末比
流動資産	1,722	2,020	1,902	-118	負債	662	926	798	-128
現預金	212	227	304	+77	買入債務	198	204	176	-28
売上債権	683	888	690	-198	借入金及び社債	120	410	284	-126
たな卸資産	738	782	814	+32	その他	344	312	338	+26
その他	89	123	94	-29	純資産	2,259	2,309	2,316	+7
固定資産	1,199	1,215	1,212	-3	株主資本※1	2,102	2,139	2,165	+26
有形固定資産	759	774	773	-1	その他有価証券評価差額金	83	83	80	-3
無形固定資産	113	107	106	-1	為替換算調整勘定	38	42	31	-11
投資有価証券	270	261	254	-7	非支配株主持分	35	34	30	-4
その他	57	73	79	+6	退職給付に係る調整累計額	1	11	10	-1
資産合計	2,921	3,235	3,114	-121	負債純資産合計	2,921	3,235	3,114	-121
					自己資本比率	76.1%	70.3%	73.4%	
					D/Eレシオ※2	-4.4%	8.5%	-1.0%	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2023年9月末	2024年3月末	2024年9月末	前期末比	参考
上場株式※3 (単体ベース保有銘柄数)	174 (26)	171 (24)	169 (24)	-2 (0)	2018年3月末 300 (55)
非上場株式	26	23	21	-2	17
関係会社株式	70	67	64	-3	68
合計	270	261	254	-7	385
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	8.0%	7.7%	7.5%		17.0%

※1 株主資本増減 +26 = 純利益205 - 配当その他179 ※2 D/Eレシオ = (借入金及び社債 - 現金預金) / 株主資本

※3 24/3末 171 + 取得0 + 評価差額-2 = 24/9末 169 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

16

次にバランスシート、16 ページになります。

左上の表が、資産の部でございますが、前期末比を見ていただきますと、9月末の3月末対比としましては、資産合計で121億円の資産減ですが、このうち大半が売上債権の減になっております。ここは例年通り、9月末にかけて売上債権の回収が進んだということでございます。

一方で、棚卸資産ですが、3月末比ではプラス32億円でございます。また、前年同期比として23年9月末と比べますと、76億円増加でございます。ここも大半が農業化学品での棚卸資産の増加ということになりますが、売上高も増えておりますので、棚卸資産回転率で言いますとあまり変わりはありません。9月末につきましては、6月末比からも減っておりますので、少しずつこれからコントロールができていく状況と認識をしております。

一方、右側の負債サイドでございますが、借入金および社債が126億円減少ということで、これは先ほどの売上債権の回収に伴って、借入金を圧縮しているという通常のオペレーションの範囲ということになります。

自己資本比率は73.4%ということでございます。

また、投資有価証券の内訳は左下にございますが、この9月末につきましても純資産に占める比率は7.5%ということで、引き続き10%を切る一定のレベルをキープしております。

セグメント別 設備投資額・減価償却費・研究開発費



設備投資及び減価償却費は、コア成長事業における製造能力増強(主に海外)により近年増加。
研究開発費は、2020-2021年度はコロナ禍で一時的に費用減少。

(億円)

	設備投資※1						減価償却※2						研究開発費					
	2020	2021	2022	2023	2024予 (5月発表)	2024予 (11月発表)	2020	2021	2022	2023	2024予 (5月発表)	2024予 (11月発表)	2020	2021	2022	2023	2024予 (5月発表)	2024予 (11月発表)
化学品※3	33	43	28	46	59	57	22	25	25	27	31	31	3	3	3	3	3	3
機能性材料※4	30	54	90	91	65	53	45	39	46	60	66	66	70	70	76	82	84	84
(うち、NCK)※4	2	13	50	57	3	2	7	5	7	23	30	31	5	5	5	8	6	7
農業化学品※5	64	17	59	51	54	48	26	27	28	34	41	27	44	42	43	43	47	44
ヘルスケア※6	3	7	5	5	7	6	5	4	4	4	4	4	24	6	4	4	5	5
卸売	2	0	1	0	8	6	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	11	3	11	9	28	21	5	6	7	12	13	15	24	39	42	41	43	41
合計	143	124	194	202	221	191	104	102	110	138	156	144	165	160	168	173	182	177

※1 設備投資額: キャッシュ・フローベース

※2 減価償却法

国内 ディスプレイ材料・半導体材料: 4年定率(初年度50%を償却)、その他: 8年定率(初年度25%を償却)

海外 NCK: 6年定率(初年度33%を償却)、NBR: 10年定額

※3 設備投資 2024年予想(11月予想) 富山工場 製造設備(9億円)を含む

※4 設備投資 2022年 NCK半導体新工場(46億円)、2023年 NCK半導体新工場(47億円)を含む

※5 設備投資 2020年 ダイセン買収(54億円)、2022年 NBR 第1期工事(43億円)、2023年 小野田工場 製造設備(26億円)、

2024年予想(11月予想) 小野田工場 製造設備(18億円)を含む

減価償却 2024年予想(11月予想) 一過性要因(償却費減少11億円)を含む

※6 2022年4月に組織改定を実施(p65参照)

設備投資: 2020-21数字は旧医薬品セグメント

減価償却・研究開発費: 2020数字は旧医薬品セグメント。2021はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

17

17 ページ、これはセグメント別の設備投資・減価償却・研究開発費等を記載しております。

設備投資の合計欄、5月発表が221億円に対しまして、今回は191億円ということで、約30億円減っておりますけど、これは一定の部分につきまして支払のずれが発生しているためです。

一方で、減価償却につきましては、合計欄156億円の5月発表に対して、今回144億円ということで、この減少の大半が農業化学品になります。これは、左下の※5に記載があります通り、一過性要因で減価償却費の減少11億円を含んでおります。これにつきましては、後ほどご説明をいたします。

セグメント別 2024年度上期決算 前年同期比

(億円)

		2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
化学品	売上高	91	88	179	89	90	179	-2	+2	0 (0%)
	営業利益	9	-10	-1	7	-11	-4	-2	-1	-3 (-)
機能性材料	売上高	208	197	405	235	251	486	+27	+54	+81 (+20%)
	営業利益	65	46	111	70	74	144	+5	+28	+33 (+29%)
農業化学品	売上高	188	165	353	204	188	392	+16	+23	+39 (+11%)
	営業利益	66	50	116	69	73	142	+3	+23	+26 (+22%)
ヘルスケア	売上高	20	15	35	15	18	33	-5	+3	-2 (-7%)
	営業利益	11	7	18	6	7	13	-5	0	-5 (-30%)
卸売・その他・調整額	売上高	42	43	85	44	48	92	+2	+5	+7
	営業利益	-1	-2	-3	-8	-4	-12	-7	-2	-9
合計	売上高	549	508	1,057	587	595	1,182	+38	+87	+125 (+12%)
	営業利益	150	91	241	144	139	283	-6	+48	+42 (+18%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館（農業製品の製造。2024年度より連結子会社化）・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか（内訳はp62,p63参照）

19

次は 19 ページから、セグメント別の詳細な数字となります。19 ページは上期の前年同期比。

セグメント別 2024年度上期決算 業績予想比



(億円)

		2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 実績			業績予想比		
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
化学品	売上高	91	90	181	89	90	179	-2	0	-2 (-1%)
	営業利益	-1	-1	-2	7	-11	-4	+8	-10	-2 (-)
機能性材料	売上高	221	226	447	235	251	486	+14	+25	+39 (+9%)
	営業利益	55	68	123	70	74	144	+15	+6	+21 (+17%)
農業化学品	売上高	199	169	368	204	188	392	+5	+19	+24 (+6%)
	営業利益	70	54	124	69	73	142	-1	+19	+18 (+15%)
ヘルスケア	売上高	18	12	30	15	18	33	-3	+6	+3 (+10%)
	営業利益	6	3	9	6	7	13	0	+4	+4 (+41%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	33	37	70	44	48	92	+11	+11	+22
	営業利益	-11	-3	-14	-8	-4	-12	+3	-1	+2
合計	売上高	562	534	1,096	587	595	1,182	+25	+61	+86 (+8%)
	営業利益	119	121	240	144	139	283	+25	+18	+43 (+18%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館(農業製品の製造。2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、
調整額: 企画本部ほか(内訳はp62,p63参照)

20

それから 20 ページは上期の業績予想比。

セグメント別 2024年度通期 前年同期比



(億円)

		2023年度 実績					2024年度 予想 (2024年11月発表)					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	179	96	81	177	356	179	103	103	206	385	0 (0%)	+7	+22	+29 (+17%)	+29 (+8%)
	営業利益	-1	4	-3	1	0	-4	2	3	5	1	-3 (-)	-2	+6	+4 (-)	+1 (-)
機能性材料	売上高	405	214	227	441	846	486	245	243	488	974	+81 (+20%)	+31	+16	+47 (+11%)	+128 (+15%)
	営業利益	111	63	51	114	225	144	73	66	139	283	+33 (+29%)	+10	+15	+25 (+22%)	+58 (+26%)
農薬化学品	売上高	353	132	336	468	821	392	125	346	471	863	+39 (+11%)	-7	+10	+3 (+1%)	+42 (+5%)
	営業利益	116	29	89	118	234	142	24	91	115	257	+26 (+22%)	-5	+2	-3 (-3%)	+23 (+10%)
ヘルスケア	売上高	35	13	15	28	63	33	11	18	29	62	-2 (-7%)	-2	+3	+1 (+6%)	-1 (-2%)
	営業利益	18	5	5	10	28	13	3	7	10	23	-5 (-30%)	-2	+2	0 (+2%)	-5 (-18%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	85	41	55	96	181	92	38	36	74	166	+7	-3	-19	-22	-15
	営業利益	-3	-8	6	-2	-5	-12	-8	-14	-22	-34	-9	0	-20	-20	-29
合計	売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	522	746	1,268	2,450	+125 (+12%)	+26	+32	+58 (+5%)	+183 (+8%)
	営業利益	241	93	148	241	482	283	94	153	247	530	+42 (+18%)	+1	+5	+6 (+2%)	+48 (+10%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館(農薬製品の製造。2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、
調整額：企画本部ほか(内訳はp62,p63参照)

※ 企画本部の2023年度実績・2024年度予想(2023年11月発表)はp52を参照

| 21

それから 21 ページ、今度は通期の 3Q、4Q も含めました前年同期比。

セグメント別 2024年度通期 前回業績予想比

(億円)

		2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
		上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
化学品	売上高	181	196	377	179	206	385	-2 (-1%)	+10 (+5%)	+8 (+2%)
	営業利益	-2	8	6	-4	5	1	-2 (-)	-3 (-40%)	-5 (-83%)
機能性材料	売上高	447	472	919	486	488	974	+39 (+9%)	+16 (+3%)	+55 (+6%)
	営業利益	123	121	244	144	139	283	+21 (+17%)	+18 (+15%)	+39 (+16%)
農業化学品	売上高	368	481	849	392	471	863	+24 (+6%)	-10 (-2%)	+14 (+2%)
	営業利益	124	117	241	142	115	257	+18 (+15%)	-2 (-2%)	+16 (+7%)
ヘルスケア	売上高	30	34	64	33	29	62	+3 (+10%)	-5 (-15%)	-2 (-3%)
	営業利益	9	14	23	13	10	23	+4 (+41%)	-4 (-26%)	0 (0%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	70	62	132	92	74	166	+22	+12	+34
	営業利益	-14	0	-14	-12	-22	-34	+2	-22	-20
合計	売上高	1,096	1,245	2,341	1,182	1,268	2,450	+86 (+8%)	+23 (+2%)	+109 (+5%)
	営業利益	240	260	500	283	247	530	+43 (+18%)	-13 (-5%)	+30 (+6%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館（農業製品の製造。2024年度より連結子会社化）・日本肥糧ほか、

調整額：企画本部ほか（内訳はp62,p63参照）

※ 企画本部の2023年度実績・2024年度予想（2023年11月発表）はp52を参照

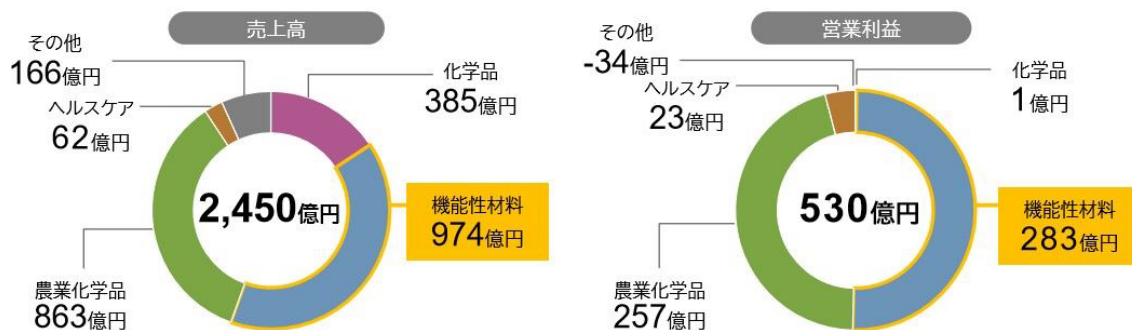
| 22

また、22 ページは年間および下期の業績予想比を表しております。

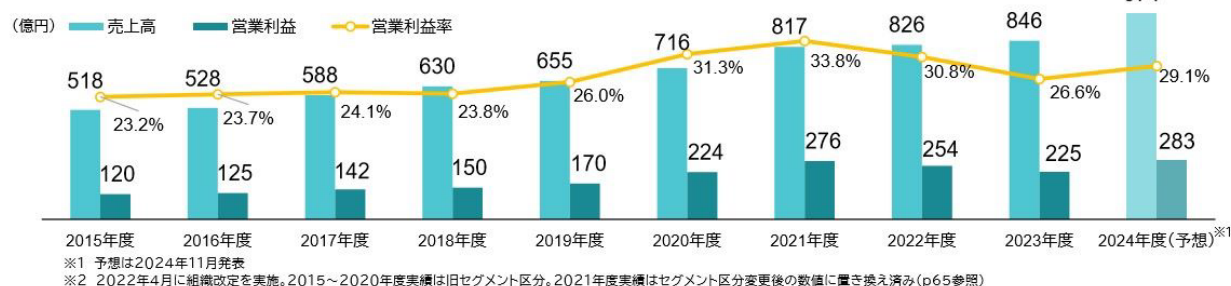
ここで一言申し上げますと、22 ページ右下の業績予想比の下期に、卸売・その他・調整額の営業利益にマイナス 22 億円がございます。

5 月発表では、ここは 0 億円でしたが、今回マイナス 22 億円ということでして、その要因としましては、足元の国際情勢や事業環境を踏まえて、当社としては一定のリスクバッファを持った固めの数字を置いておるということは、あらかじめご説明をしておきます。

2024年度セグメント別業績予想※1



機能性材料セグメント業績推移※2



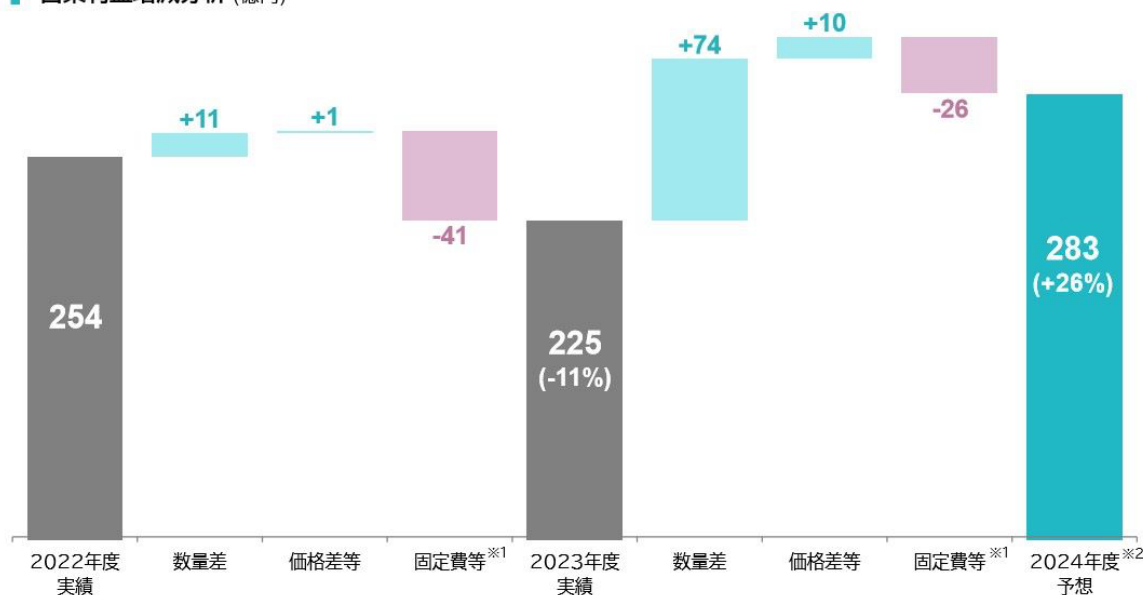
参考 機能性材料R&D説明会 (2022年6月21日発表)

23

次、23 ページから機能性材料のセグメントに入ります。

- 2024年度の営業利益は、ディスプレイや半導体の市場回復による数量増が、半導体の成長投資による固定費等の増加を上回り、大幅増益(前年同期比+26%)

■ 営業利益増減分析 (億円)



※1 固定費等には在庫変動影響を含む
 ※2 予想は2024年11月発表

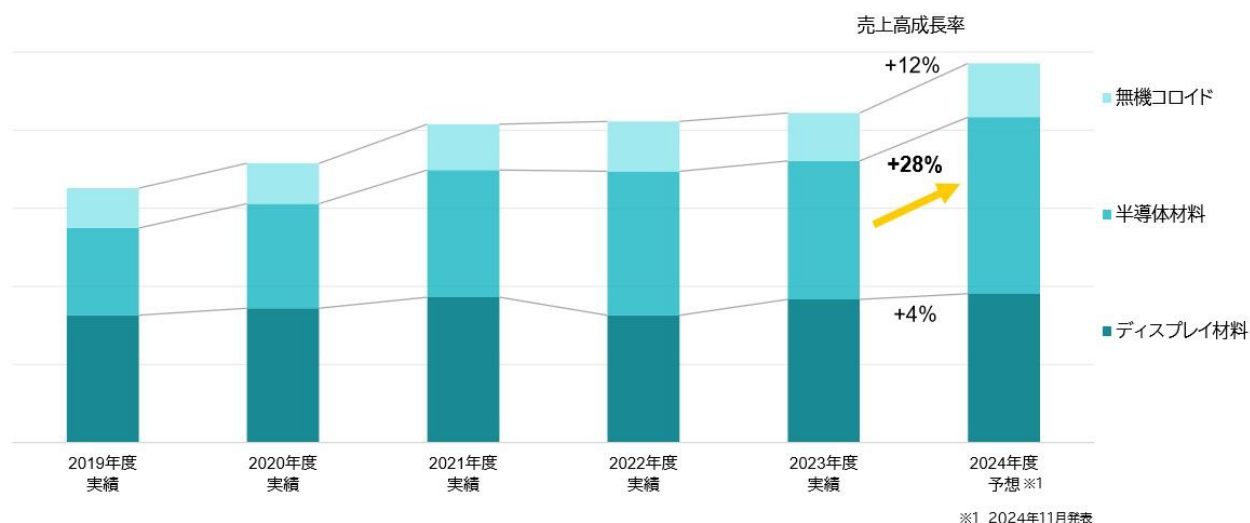
24

24 ページに 22 年から足元にわたる 2 年間の営業利益の増減を、数量差、価格差等、また固定費等に分解してご説明をしております。

いずれにしましても、23 年度がボトムであったということですが、この 24 年度の予想につきましては、ディスプレイ、半導体の市場回復による数量増が非常に大きいということで、半導体については、一定の成長投資のため固定費等増加しておりますけれども、これを大きく上回り、全体としては 26%の増益となります。

- ディ스플레이材料は、2022年度を底として回復。キャッシュカウとして安定的な売上高を維持
- 半導体材料は、2023年度は一時的な調整局面にあったが、市場の回復に伴い、足元では高い成長率を見込む
EUV材料は顧客生産増により伸長し、中長期での成長トレンドは不変
- サブセグメント売上高構成では、成長ドライバーである半導体材料がディスプレイ材料を上回る

機能性材料サブセグメント売上高推移



また、機能性材料のサブセグメントごとの売上高は、次の 25 ページにございます。

下の棒グラフは、2019 年からお示しをしておりますが、下がディスプレイ、真ん中が半導体、上が無機コロイドでして、それぞれ 24 年度は前年比で売上高が成長しております。特に半導体が大きく伸びており、また無機コロイドも 12% 増でございます。コメントに記載してあります通り、ディスプレイについては 22 年度を底として回復し、キャッシュカウとして安定的な売上高を維持しております。また半導体は 23 年度に一時的な調整局面にありましたが、市場回復に伴い足元では高い成長率を見込んでおり、特に EUV 材料については顧客生産増により伸長し、中長期での成長トレンドは不変と考えております。

- ディスプレイ材料は、2024年度上期で1%増収、業績予想比でほぼ予想通り。2024年度年間で4%増収予想
- 半導体材料は、2024年度上期で42%増収、業績予想比でも上ぶれ。2024年度年間で28%増収予想
- 無機コロイドは、2024年度上期で19%増収、業績予想比でも上ぶれ。2024年度年間で12%増収予想

主要製品	2024年度 予想(2024/5発表)					2024年度 予想(2024/11発表)				
	前年同期比					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間
ディスプレイ材料合計	+2%	+2%	+2%	+6%	+4%	-4%	+7%	+1%	+6%	+4%
ARC®	+3%	+24%	+13%	+5%	+9%	+22%	+43%	+32%	+11%	+21%
多層材料	+31%	+51%	+41%	+11%	+24%	+59%	+77%	+68%	+17%	+38%
EUV材料※1	+39%	+32%	+35%	+38%	+37%	+42%	+45%	+44%	+44%	+44%
半導体材料合計	+13%	+30%	+22%	+10%	+15%	+33%	+51%	+42%	+16%	+28%
無機コロイド合計	+3%	+11%	+7%	0%	+3%	+12%	+27%	+19%	+5%	+12%
機能性材料セグメント合計	+6%	+15%	+10%	+7%	+9%	+13%	+28%	+20%	+11%	+15%

※1 EUV材料：EUV向け下層膜とSi-HMの合計

続きまして、26 ページ、主要製品の売上高成長率でございます。

ディスプレイ材料は年間でプラス 4%、半導体材料については合計でプラス 28%ですが、特に多層材料と EUV 材料が大きく伸びております。また、無機コロイドも合計でプラス 12%でございます。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	405	441	846	486	488	974	+81	+47	+128
営業利益	111	114	225	144	139	283	+33	+25	+58

固定費等【上期】増加21億円【下期】増加5億円【年間】増加26億円

ディスプレイ		【上期】【下期】【年間】増収・増益
光IPS	非スマホ向け全般で増収	【上期】増収（ノートPC向け増収） 【下期】増収（大型モニター向け増収） 【年間】増収（ノートPC・大型モニター向け増収）
ラビングIPS	【上期】減収 【下期】【年間】増収	
VA	【上期】減収 【下期】【年間】増収（TV生産回復）	
固定費等		【上期】増加1億円【下期】増加1億円【年間】増加2億円

半導体		【上期】【下期】【年間】増収・増益
ARC®	先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増 2Qは一部顧客で在庫積み増しあり	【上期】【下期】【年間】増収
多層材料		【上期】【下期】【年間】増収
EUV材料		【上期】【下期】【年間】増収
固定費等		【上期】増加19億円【下期】増加4億円【年間】増加23億円
無機 クロイド		【上期】増収・増益 【下期】増収・営業利益横ばい 【年間】増収・増益
		【年間】スノーテックス(特に研磨剤)、オルガノ・モノマーソル増収

27

次に 27 ページは、機能性材料セグメントにおける売上高と営業利益の前年同期比を上期、下期、年間に分けてお示しをしております。

固定費等は表の一つ下にご記載しておりますが、特に金額が大きいため内訳を記載しております。年間で言えば固定費等、これは在庫影響も含まれますが、機能性材料全体で 26 億円の固定費等の増加がございました。

ディスプレイについては増収・増益ということで、特に非スマホ向け全般で増収ということでございます。また、半導体で言えば、先端世代を中心に市場回復、また顧客稼働増ということでして、2Q では一部顧客で在庫の積み増しもございました。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	447	472	919	486	488	974	+39	+16	+55
営業利益	123	121	244	144	139	283	+21	+18	+39

固定費等【上期】上ぶれ5億円(減益要因)【下期】下ぶれ7億円(増益要因)【年間】下ぶれ2億円(増益要因)

ディスプレイ	【上期】【年間】売上高予想通り・営業利益上ぶれ		
	光IPS	【上期】【年間】売上高予想通り	
	ラビングIPS	【上期】【年間】売上高上ぶれ (ノートPC・大型モニター向け上ぶれ)	
	VA	【上期】【年間】売上高下ぶれ	
固定費等			
【上期】下ぶれ2億円(増益要因)【下期】上ぶれ1億円(減益要因)			
【年間】下ぶれ1億円(増益要因)			

半導体

【上期】【年間】売上高・営業利益上ぶれ

先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増
2Qは一部顧客で在庫積み増しあり

ARC®

【上期】【年間】売上高上ぶれ

多層材料

【上期】【年間】売上高上ぶれ

EUV材料

【上期】【年間】売上高上ぶれ

固定費等

【上期】上ぶれ7億円(減益要因) 【下期】下ぶれ6億円(増益要因)
【年間】上ぶれ1億円(減益要因)

無機
クロイド

【上期】【年間】売上高・営業利益上ぶれ

【年間】スノーテックス(特に研磨剤)、オルガノ・モノマーゾル売上高上ぶれ

| 28

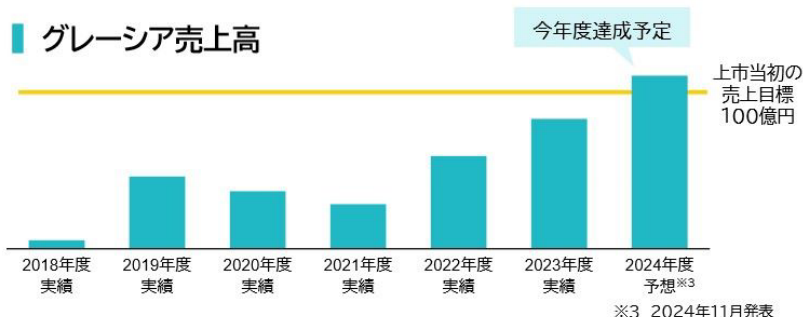
それから 28 ページ、ここは業績予想比をお示ししております。

ディスプレイでは売上高は年間として 5 月発表通りを確保できると見込んでおります。また、半導体につきましては売上高・営業利益とも上ぶれ、無機も同様ということでございます。

- 2024年度上期で11%増収、業績予想比でも上ぶれ。2024年度年間で5%増収予想

主要製品名 (農業:2023年度売上高順)	種類	2024年 予想(2024/5発表)					2024年 予想(2024/11発表)				
		前年同期比					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間
農薬	ラウンドアップ ^{※1}	0%	+3%	+1%	+2%	+2%	-1%	-2%	-2%	-6%	-4%
	アルテア	+9%	+96%	+17%	+2%	+5%	+21%	+13%	+20%	-5%	0%
	グレーシア	+11%	+6%	+9%	+45%	+27%	+44%	+41%	+42%	+25%	+33%
	タルガ	-23%	-44%	-30%	-24%	-27%	-55%	-29%	-47%	-11%	-29%
	ダイセン	-6%	-9%	-8%	-7%	-7%	-20%	-27%	-24%	-3%	-11%
	パーミット	+29%	-5%	+3%	-16%	-4%	+69%	-83%	-46%	+82%	+2%
	ライメイ	+81%	-3%	+39%	+4%	+14%	+121%	+129%	+125%	-6%	+32%
動物薬	フルララネル	+11%	0%	+6%	+4%	+5%	+11%	+30%	+20%	+2%	+12%
セグメント合計 ^{※2}		+6%	+3%	+4%	+3%	+3%	+8%	+14%	+11%	+1%	+5%

グレーシア売上高



参考

ラウンドアップの現状説明会資料 [☑](#)
(2020年1月22日発表)
農業化学品事業説明会資料 [☑](#)
(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2024年度上期のラウンドアップ売上高全体の32%を占める
※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

30

続きまして、農業化学品でございます。30 ページを見ていただきますと、この上期では、売上高は前年同期比で 11%の増収でございました。また、業績予想比でも上ぶれということで、年間では、5%増収ということをご想定いたします。

ここに、ラウンドアップ以下、一般農薬と動物薬フルララネルの 1Q・2Q・上期・下期・年間での前年同期比をお示ししております。

ラウンドアップにつきましては、特に下期、流通在庫影響に伴って少し減収をご想定しております。また、タルガは 23 年度の前倒し出荷に加えて、以前から申し上げている欧州の流通在庫の影響も受けております。ダイセンは来年度に一部海外向け出荷が期ずれする影響もございました。それ以外はおおむね、グレーシアやライメイ等、2 桁の伸びでございました。

動物薬につきましても、上期でプラス 20%、年間ではプラス 12%という想定をいたします。

左下でございますグレーシアの売上高、今期につきましては当初の目標の 100 億円をクリアする予定ということでございます。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	353	468	821	392	471	863	+39	+3	+42
営業利益	116	118	234	142	115	257	+26	-3	+23

固定費等 【上期】減少2億円(一過性要因(償却費減少11億円)を含む) 【下期】増加16億円
【年間】増加14億円(同上)

【上期】増収・増益

ラウンドアップ 減収(ML:流通在庫影響により数量減)

ダイセン 減収(輸出:一部出荷下期へ後ろ倒し)

アルテア 増収(国内:拡販)

パーミット 減収(輸出:一部出荷下期へ後ろ倒し)

グレーシア 増収(国内:拡販、輸出:アジアでの拡販)

ライメイ 増収(輸出:欧州での需要増により増収)

タルガ 減収(輸出:23年度へ出荷前倒し、欧州での流通在庫影響)

フルララネル 増収(原薬出荷:一部出荷下期より前倒しにより増収
ロイヤリティ:増収、一部円安影響あり)

【下期】増収・減益

ラウンドアップ 減収(ML:流通在庫影響により数量減)

パーミット 増収(輸出:一部出荷上期から後ろ倒し)

アルテア 減収(輸出:アジアでの流通在庫影響)

フルララネル 増収(原薬出荷・ロイヤリティともに増収)

グレーシア 増収(輸出:アジア等での拡販)

【年間】増収・増益

ラウンドアップ 減収(ML:流通在庫影響により数量減)

ダイセン 減収(輸出:一部出荷来期へ後ろ倒し)

グレーシア 増収(国内:拡販、輸出:アジア等での拡販)

ライメイ 増収(輸出:欧州での需要増により増収)

タルガ 減収(輸出:23年度へ出荷前倒し、欧州での流通在庫影響)

フルララネル 増収(原薬出荷・ロイヤリティともに増収、
一部円安影響あり)

31

31 ページ、これは前年同期比の上期・下期・年間の数字と、それぞれの剤についてのコメントを付しております。

固定費等が表の下に記載ございますが、こちらは一過性要因（償却費減少 11 億円）を含んでおります。

相手先との関係がございますので、個別の詳細は非開示ですが、大まかに言えば、過去、当社が事業を譲り受けた契約におきまして、ある一定の条件が充足すると対価の戻しがあるという条項が入ってございました。今回、双方話し合いの上、その条件を成就したということで、過去にさかのぼりまして一定ののれんについて改めて再計算をした結果ということで、減価償却費 11 億円の減少になっております。

したがって一過性ということですが、数字としては、この上期のプラス 26 億円の増益の中に入っているということになります。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	368	481	849	392	471	863	+24	-10	+14
営業利益	124	117	241	142	115	257	+18	-2	+16

固定費等 【上期】下ぶれ10億円(増益要因、一過性要因(償却費減少11億円)を含む) 【下期】下ぶれ2億円(増益要因)
【年間】下ぶれ12億円(増益要因、同上)

【上期】売上高・営業利益上ぶれ

ラウンドアップ	売上高下ぶれ(AL:天候不良により数量減)
グレースシア	売上高上ぶれ(輸出:出荷時期のずれ)
タルガ	売上高下ぶれ(輸出:23年度へ出荷前倒し、 欧州での流通在庫影響)

ダイセン	売上高下ぶれ(輸出:一部出荷下期へ後ろ倒し)
パーミット	売上高下ぶれ(輸出:一部出荷下期へ後ろ倒し)
ライメイ	売上高上ぶれ(輸出:欧州での需要増により増収)
フルララネル	売上高上ぶれ (原薬出荷:一部出荷下期より前倒しにより上ぶれ ロイヤリティ:上ぶれ、一部円安影響あり)

【年間】売上高・営業利益上ぶれ

ラウンドアップ	売上高下ぶれ(ML:流通在庫影響により数量減)
グレースシア	売上高上ぶれ(輸出:アジアでの拡販)
アルテア	売上高下ぶれ(国内:数量減、輸出:アジアでの流通在庫影響)

パーミット	売上高上ぶれ(輸出:アジアでの拡販)
ライメイ	売上高上ぶれ(輸出:欧州での需要増)
フルララネル	売上高上ぶれ (原薬出荷・ロイヤリティともに売上高上ぶれ、 一部円安影響あり)

| 32

それから 32 ページ、業績予想比は年間で 16 億円の上ぶれということですが、ここにも先ほどの 11 億円が入った数字とご理解いただければと思います。

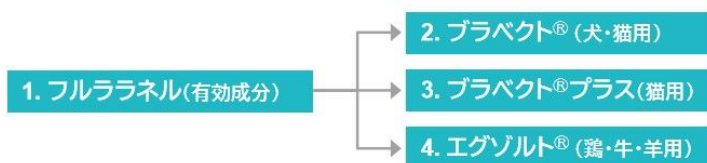
	上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
既存製品	2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
	2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
	2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
	2009	バルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
	2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2017年AIⅢ上市
	2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
	2013	フルラネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラベクト※2原薬として出荷開始
	2014	ブラベクト※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
新製品・パイプライン	2017	トランスフォーム TM /エクシード TM /ビレスコ TM	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
	2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市以降、順次販売国拡大中(ピーク時売上高目標100億円)
	2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
	2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
	2024	ベルダー(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上高目標35億円)
	2027	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上高目標25億円)
	2027	未定(イブトリアソビリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

新製品群の
ピーク時売上高
目標合計
310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラベクト:MSD社の販売製品名

それから 33 ページ、当社のパイプラインにつきましては、前回 8 月にお示ししたところから大きく変わっておりません。

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)



1. フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

2. ブラベクト® (BRAVECTO®)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
- 犬向け注射剤(BRAVECTO® Quantum)
 - 12か月※3の効果持続性
 - 2024年6月豪州、以降欧州等にて上市

3. ブラベクト®プラス (BRAVECTO® Plus)

- 猫向け内外寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市

4. エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年9月ブラジル上市、2023年4月メキシコ上市
- 羊向け
 - 2023年豪州、NZにて上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリイロコイタマダニは8週間

※3 クリイロコイタマダニは11か月

35

また、35 ページに飛びますけども、動物薬の特許の状況ということで、特に米国については、ここに記載の通り、今回も同様の記載ぶりということで、延長申請中ということにさせていただいております。

それから次、化学品でございます。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	179	177	356	179	206	385	0	+29	+29
ファインケミカル	60	56	116	63	67	130	+3	+11	+14
基礎化学品	119	121	240	116	139	255	-3	+18	+15
営業利益	-1	1	0	-4	5	1	-3	+4	+1

固定費等 【上期】増加5億円 【下期】増加8億円 【年間】増加13億円

ファインケミカル	【上期】増収・増益 【下期】増収・減益 【年間】増収・減益			基礎化学品	【上期】減収・減益 【下期】増収・増益 【年間】増収・増益		
	一部需要回復傾向				【上期】-16%減収(震災影響による在庫水準減で出荷減)		
	テピック一般	【上期】+35%増収 【下期】+3%増収 【年間】+18%増収			尿素・アドブルー®	【下期】+17%増収(震災影響の反動増)	
						【年間】横ばい	
	テピック電材	【上期】+7%増収 【下期】-2%減収 【年間】+2%増収			高純度硫酸	半導体向け需要増 【上期】+35%増収 【下期】+19%増収 【年間】+26%増収	
環境化学品				硝酸製品			
	【上期】-3%減収				【上期】-6%減収		
	【下期】+43%増収(23年度震災影響の反動増)				【下期】+10%増収(震災影響の反動増)		
	【年間】+16%増収(23年度震災影響の反動増)				【年間】+2%増収		
ファインオキシソール	化粧品用途需要回復						
	【上期】+12%増収 【下期】+20%増収 【年間】+17%増収						

| 39

これは 39 ページ、40 ページに個別製品について、売上の状況を中心にご説明をしてあります。

特に、ファインについては、テピック一般は輸出市場において、中国品の影響という事業環境については大きな変化はありませんが、一部需要の回復傾向が見られるということで、上期の前年同期比で、売上が 35%増収になっております。

また、基礎化学品の高純度硫酸につきましては、半導体向けの需要増を受けまして、記載の通りの売上高の伸びが示されております。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	181	196	377	179	206	385	-2	+10	+8
ファインケミカル	61	61	122	63	67	130	+2	+6	+8
基礎化学品	120	135	255	116	139	255	-4	+4	0
営業利益	-2	8	6	-4	5	1	-2	-3	-5

固定費等 【上期】下ぶれ2億円(増益要因) 【下期】上ぶれ6億円(減益要因) 【年間】上ぶれ4億円(減益要因)

【上期】売上高・営業利益上ぶれ

【年間】売上高・営業利益上ぶれ

ファインケミカル

テビック一般 【上期】【年間】売上高上ぶれ

テビック電材 【上期】【年間】売上高下ぶれ

環境化学品 【上期】売上高下ぶれ
【年間】売上高上ぶれ

ファインオキシコール 【上期】【年間】売上高上ぶれ

【上期】売上高・営業利益下ぶれ

【年間】売上高予想通り、営業利益下ぶれ

基礎化学品

尿素・アドブルー® 【上期】売上高下ぶれ
【年間】売上高予想通り

高純度硫酸 【上期】【年間】売上高上ぶれ

硝酸製品 【上期】【年間】売上高下ぶれ

40 ページは業績予想比でございまして、ここは残念ながら営業利益でマイナス 5 億円の下ぶれとなっております。これは特に基礎でございまして、在庫影響も一定部分、費用サイドに働いたということがございました。また電力料金や運送費等のコスト増は、冒頭申し上げた通りですけれども、この中に入っておるということでございます。

最後にヘルスケアは 43 ページ、44 ページ、45 ページでして、後ほどご覧いただければと思います。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年5月発表)			2024年度 予想 (2024年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	30	34	64	33	29	62	+3	-5	-2
ヘルスケア	8	11	19	8	8	16	0	-3	-3
ファインテック	22	23	45	25	21	46	+3	-2	+1
営業利益	9	14	23	13	10	23	+4	-4	0
ヘルスケア	2	3	5	1	2	3	-1	-1	-2
ファインテック	7	11	18	11	9	20	+4	-2	+2

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これによりヘルスケア・ファインテックの合算値はセグメント合計と一致しない場合がある

【上期】売上高・営業利益上ぶれ

ファインテック売上高上ぶれ(顧客在庫積み増しによる出荷上ぶれ)

【年間】売上高下ぶれ・営業利益横ばい

ヘルスケア売上高下ぶれ(リパロ国内下ぶれ)、ファインテック売上高上ぶれ(顧客在庫積み増しによる出荷上ぶれ)

45 ページ、営業利益の前回業績予想比では予想通りを目指していくということでございます。

GHG排出量の削減

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)



■ 他社とのGHG排出量の比較

年度	2011	2018	2019	2020	2021	2022	2023
日産化学(単体ベース)	448	363	327	318	345	328	285
大手総合化学4社平均 (連結ベース)	-	-	9,275	8,928	9,226	8,390	7,863

(千トン-CO₂e)

■ 中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

最後に 50 ページは、GHG 排出量の削減でございまして、23 年実績につきましては、この棒グラフの右から二つ目の棒の通り、285 千トンという数字でございまして、21 年から段階的に削減をしているということがご理解いただけるかと思います。

また、中計との比較を、52 ページ、53 ページに載せております。

2024年度予想と中期経営計画 Stage I (2022年5月発表)の差異

(億円)

		2024年度 中計(A)	2024年度 予想※1(B)	差異 (B)-(A)	差異要因
化学品	売上高	376	385	+9	ファインケミカル 下ぶれ(-9%) テビック(一般、電材) 基礎化学品 上ぶれ(+9%) 尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品
	営業利益	35	1	-34	ファインケミカル・基礎化学品下ぶれ 固定費等上ぶれ、原燃料コスト上ぶれ
機能性材料	売上高	1,029	974	-55	ディスプレイ 下ぶれ(-12%) IPS(ラビング・光)、VA、その他ディスプレイ材料 半導体 下ぶれ(-4%) ARC®, 多層材料 無機コロイド 上ぶれ(+11%) スノーテックス、オルガノゾル・モノマー・ゾル
	営業利益	321	283	-38	ディスプレイ・半導体下ぶれ 市場調整により売上高下ぶれ(ディスプレイ・半導体)
農業化学品	売上高	778	863	+85	農薬 上ぶれ(+8%) グレーシア、バーミット 動物薬 上ぶれ(+21%)
	営業利益	217	257	+40	売上高上ぶれ
ヘルスケア	売上高	72	62	-10	創薬 予想通り ファインテック 下ぶれ(-19%) ジェネリック原薬、新製品
	営業利益	21	23	+2	
卸売・ その他・ 調整額	売上高	295	166	-129	調整額等 下ぶれ
	営業利益	-9	-34	-25	卸売 上ぶれ+11、調整額 下ぶれ-35(うち、企画本部-6)、その他国内子会社 下ぶれ-1
合計	売上高	2,550	2,450	-100	
	営業利益	585	530	-55	

※1 2024年11月発表

53

特に 53 ページ、細かくは申し上げませんが、営業利益合計としては、当時 2 年半前に開示をいたしました 24 年中計から見ますと、55 億円の下ぶれになりますが、内訳としては化学品でマイナス 34 億円、機能性材料でマイナス 38 億円、一方、農業化学品ではプラス 40 億円でした。

化学品におきましては、足元の輸出マーケットにおける非常に厳しい事業環境をなかなか想定しづらかったということ、また機能性につきましては、ディスプレイ材料や半導体材料において、市場の調整局面がございましたので、この辺りは当時想定できなかったということですが、足元の状況としましては、先ほど申し上げました通り、特に半導体については、順調にベクトルは上に向かっているということは申し上げていいかと思います。

私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：サンエバーが1Qは一時的な減速ということでしたが御社の想定通りに2Qに戻られた背景や下期に向けた見方を教えてください。

A：サンエバーが上期通してほぼ予算通りだった背景は、1Qでやや不調であったスマホが、2Qにある程度戻ってきたことに加え、IT、その中でも特にノートPC向けの回復があったためです。ただ2Qは、TV用のVAはまだあまり調子は良くありませんでした。

下期についてはTV用のVAに関しては、今年6月から始まった、主に中国顧客での生産調整が一段落し、パネル単価の下落が止まったといった状況から、11月以降から回復基調にあります。

IT、特にノートPCをメインとするIT機種での回復もしばらく継続しそうな市場の動きを予測しており、下期も業績予想通りの着地を想定しております。

Q：次に半導体材料について、下期は先端世代のみ好調かと思いますが、レガシーも含めて今後の動きをどう見られていますか。

A：上期はAI需要の伸びで23年度比は大幅にプラスという形でしたが、下期もこの流れは引き続き続く予測です。AI向けの先端DRAM・ロジック含め、そこは堅調に伸びていくという予測です。

また上期についてはお客様側で在庫の積み増しの動きがあり、その反動が若干下期で出てくることがありますが、引き続き年初予想に対してはプラスで推移していくと考えております。

一方で、レガシー世代に関しましては、まだ下期から回復していくというような動きはありませんので、回復は25年度に入ってから徐々にという予測をしております。

Q：続いて農業化学品の外部環境について国内と海外の見方を教えてください。

A：農業化学品の国内業界の状況は、4月以降も全体的に順調に推移しております。当社も同じような傾向で、前年対比で見ると業界水準並みに好調に推移していると推測しています。

海外につきましても、穀物需要の増加により、引き続き農薬市場は拡大していくと考えておりますが、ジェネリック農薬などによる価格競争、こういったものは激化していくのではないかと見ています。その中で、当社といたしましては、海外につきましても剤によるプラスマイナスはありますが、おおむね順調に推移していると考えております。

<質問者 2>

Q：半導体事業における一部ユーザーでの在庫積み増しとは ARC と多層材料という認識でよろしいでしょうか。また、在庫積み増しによる反動の影響は 3Q に出るのでしょうか？

A：在庫積み増しの中身は ARC、多層材料となります。また、在庫積み増しの反動は 3Q だけでなく 4Q にもかかると考えております。

Q：次に、農業化学品のラウンドアップについて、在庫調整があり下期の前年比がマイナス 6% ということですが、この影響はどの程度まで続くのでしょうか。また影響があるのは ML だけでしょうか？

A：ラウンドアップの下期の在庫調整は今期のみ流通在庫であり、これを整理するという形で影響が出る見込みです。来期のところではこの影響はなくなると考えております。また影響があるのは ML のみとなります。

<質問者 3>

Q：アルテアの下方修正、グレースシアおよびライメイの上方修正の要因についてもう少し詳しく教えてくださいいただけますか。

A：アルテアにつきましては、年間で見ますと、国内で前年よりはプラスで見込んでおりますが、業績予想からしますと、推奨製品の入れ替えが一部苦戦しており、若干下ぶれとなっております。

海外につきましては、流通在庫の影響でマイナスの予想となっております。

ライメイにつきましては、欧州のジャガイモの需要増が効いております。去年は高温の乾燥による菌の出現が減少していたので、その部分で販売増となっております。

グレースシアにつきましては、上期の好調により、年間もプラスで推移する見込みです。特に、インドを中心としたところで販売増と考えております。

Q：計画比で見ても、ライメイは欧州向け、グレースシアはインド向けが上ぶれ要因になったのでしょうか。

A：ご理解いただいている通りです。

Q：フルララネルの特許延長については、アップデートは今回ありませんでしたがいつ頃出てきそうでしょうか。今こういったステータスなのでしょうか。

A：当局の判断ということでもありますのでおそらく3月末までにはわかるのではないかなという感触を持っております。

Q：続いて半導体材料に関して上ぶれ要因を教えてください。

また、中国向けの出荷について構成比の変化やローカルメーカーの台頭、アメリカの輸出規制の影響についても教えてください。

A：上ぶれにつきまして、ARC、多層材料、EUV材料、全てプラスとなっていますが、ARC、多層材料に関しましては、先端世代で使われることに加えて、中国のお客様にもかなり使っていただいています。

EUV材料に関しましては、こちらも先端世代が非常に拡大しているということに加えて、使われるレイヤー数もどんどん増えており、昨年にくらべてもかなりプラスとなっております。今後も大きな成長を期待しております。

また中国顧客向けの出荷に関しては、量としては昨年に比べて増えています。中国ローカルの競合メーカーもARCや多層材料向けで会社数は増えており、実際に一部のお客様で採用され、量産ベースにのっているといった話がありますが、現段階ではそこまで大きなインパクトは出ていないという認識です。

米中のデカップリング関連ですが、影響としては現在出ておりません。

<質問者4>

Q：全体感について、下期については上期比で減益となっており、前回予想比でも減益修正かと思っています。

この修正後の計画について、卸売・その他については少しバッファを持たせているというコメントもありましたが、その他各セグメントにおいてアップサイドリスクがないのか確認させてください。

特に半導体の2Qで在庫の積み増しがあったというご説明でしたが1Qにも2Qからの前倒しがあったかと思うので、純粋に実需が強い可能性がないのか。

A：調整額は本来的には想定が難しいところですが、今回については業績予想を社内で作った後にいろんなファクターをもう一度精査し、一定の額についてはあえてダウンサイドを見た数字としております。

個別の事業部ごとにいくつか数字を想定して定量的に出したというものではございません。半導体についてはお客様の事情で出荷時期がずれることもありますので、そういった調整はしておりますが、基本的には営業利益 530 億円をボトムとして、上乗せがどこまでできるかということ想定したいという目線で作った数字とお考えいただければと思います。

Q：続いてディスプレイ材料の今後の成長性について教えてください。

モニター・タブレット・車載向けの 3 つで光 IPS 売上高の半分ぐらいが説明できると思います。

モニターについては、現状、光 IPS 転換比率が最も低く、過去数年間、光比率の上昇率が最も小さい反面、今後光 IPS 転換比率の上昇余地が大きいと思います。その可能性について教えてください。

また、タブレットについては、今年北米の OLED モデルが出ましたが、現状あまり売れておらず、やはり LCD のモデルの売れ行きが良いと聞いています。その辺りは御社にとってプラスになると考えていいのでしょうか。

車載については、自動車の生産が弱含む中でも、パネルの面積成長が大きいように思います。御社からも同様の傾向が見られるか、その辺りについて教えてください。

A：まずモニターは現状、ラビング IPS や VA から光 IPS への転換が最も遅れているアプリケーションとなります。

今後、モニターにおいても、高性能化、高コントラストといった表示機能の要求が厳しくなっていくにつれて、光 IPS 転換比率は徐々に増えていくと思っています。

直近では、現計画通りかとは思いますが、数年先ではモニターの光 IPS 転換は、期待できる要素であると認識しております。

タブレットについては価格が高すぎるということで Apple の iPad Pro が市場からはあまり受け入れられていないような情報は入ってきております。

その影響が LCD に対してどう出るかに関しては数字上では読み取れていませんが、少なくとも LCD がマイナスになるという要素にはならないと考えております。OLED の売れ行きが悪い分 LCD が代わりに売れていくという可能性が一定レベルであると考えております。

車載に関して大画面化は着実に進んでいますし、車載に使われている配向材の使用量も着実に伸びてきています。

<質問者 5>

Q：化学品の構造改革の進捗状況教えてください。

A：構造改革につきましてはただいま社内で慎重に検討を進めており、まだご説明できる段階には至っておりません。

Q：構造改革の対象となる具体的な製品は変わらないという認識でいいでしょうか。

A：はい、その通りです。

<質問者 6>

Q：ディスプレイでスマホ用途の OLED シフトの影響が 1Q にあったと思います。

2Q はスマホの OLED シフトの影響が見えないぐらい他の領域が伸びているようですが、スマホの OLED シフトの影響は 2Q も残っていたのでしょうか。

A：1Q から 2Q にかけて OLED シフトは継続しております。これは止まることはない流れです。

一方で、1Q が不調であった理由の一つとして、前回決算説明会において流通在庫の影響があったのではないかという話をしました。おそらくはその在庫の調整が 1Q の間に一段落し、2Q から新興国向けのローエンドの LCD スマホの生産も戻ってきたと考えています。

新興国向けのパネルの生産が特に中国で増えてきているという話を聞いております。

Q：テピック(一般向け)ですが、今回数字見ると戻ってきているように見えますが事業環境として改善してきているのか。中国品の日本の国内への流入は止まってきているのか教えてください。

A：テピック(一般向け)につきましては、事業環境が厳しいところは変わっておりません。一部顧客の需要につきましては在庫過多が解消し、回復してきていますが、市況を含めたところでは厳しい状況が続いています。

またテピック(一般向け)は海外マーケットへの販売がメインですので、国内への流入は特にございません。

以上